

## 平成24年 第8回 教育委員会臨時会議事録

招集日時 平成24年8月6日（月曜日） 午前10時開会／午前10時57分閉会  
招集場所 加賀市市民会館2階 第7会議室  
出席委員 石橋雅之、上田政憲、小林圭子、酒谷百合子、旭直樹  
会議列席者 掛山事務局長、宮本次長兼学校指導課長、中矢次長兼九谷焼美術館副館長、梶谷教育庶務課長、西出生涯学習課長、谷口スポーツ課長、田嶋文化課長、寺田図書館長、米屋課長補佐

- 石橋委員長 平成24年第8回教育委員会臨時会開会宣言  
挨拶  
それでは議案第27号について事務局よりご説明をお願いします。
- 議案第27号 加賀市教育振興基本計画について  
梶谷課長 資料に基づき説明
- 石橋委員長 内容を次回までに読んでいただいた上で、ご意見がありましたらお願いします。何かご質問ございますか。ないようでしたら私からよろしいですか。この答申書まで出まして、この教育委員会において審議するということは、その上で承認をして正式な計画として市長に提出するんですけども、審議するにあたってこの文言に関して変更・追加・削除は認められるのですか。そのところをまず確認しておきたいのですが。
- 梶谷課長 審議いただきまして、修正は可能でございます。あくまでも教育委員会として、参考にしながらまとめるというかたちです。策定者は基本的に教育委員会委員長名で出ることを予定しております。
- 石橋委員長 はい。もう一点、次回8月23日が最終審議ですね。
- 掛山局長 時間がなくて申し訳ないですけども、それでお願いしたいと思います。
- 石橋委員長 それでは疑問点、あるいはもっとこうした方がいいのではないかな等のご意見がありましたらお願いします。
- 旭教育長 1年半にわたって作ってきたものです。各課の方で練っていただいて事務局としては大変苦勞してきたものだと私は思っています。ですから文章の表現自体も去年の今頃にかけているものと現在では、時代が変わってきている。その途中に、今年は大津の中2自殺訴訟問題等ではじめがクローズアップされましたね。そうすると、はじめのことが何も載っていないじゃないかと言われてもちょっと困るわけです。あくまでも大きな5課体制で加賀市が望む人間像、こういう子を育てたい、そのためにどう動かないといけないかという流れになると思っていただきたいんです。そういう点で数値目標がある方も完璧なものはないですので、またお気づきの点があればお願いします。ただ、これもいつまでもやっていると、また時代が流れていってエンドレスになりますので、一度8月で締めてまた見直していくというかたちにしたいと

思います。例えば、後ろの資料編に加賀市の組織図があつて、学校だけではなくてスポーツ施設、文化施設等が書いてあります。また、在籍生徒数の推移も載っております。それから各学校の建築年次も全部入れてもらいました。今から計画訪問等でこういうものも総合的に見ながら学校の統廃合を見ていかないといけない。社会教育施設の建築年次も入っています。山代の文化会館も我々教育委員会の直属です。音量を直しましたけども今度は。

掛山局長  
旭教育長

音響です。今年は屋上防水も直さないといけません。

あそこは大変良い施設なんですけども、維持管理だけで大変なんです。だけど我々教育委員会は学校教育にも回したいけども、総合的な物の見方でやっ  
ていかないといけない。加賀市の屋外プール、室内プールの維持管理も大変  
です。学校施設を含めた 77 施設の維持管理を教育委員会がしているんです  
が、学校だけで 1 億円を今年ままとめてもらいました。東和中学校の雨漏り  
だけで 1 千万円、それから錦城中学校のペンキ塗りだけで 1 千万円とすぐにな  
くなります。だから今度の 9 月補正で、1 億円内でまかないきれないもの  
を補正で出していかないといけないという現状がございます。こういうところ  
は教育委員会事務局だけではなくて、学校現場も保護者も皆わかった上  
で、加賀市の教育をどうしていかないといけないかというつもりでこれを作  
ってくれたんです。もちろん方向性もあります。それから学校の先生は非常  
に子どもに対して熱心なんです。これは言うまでもなく頭が下がるんです  
が、その子どもの背景にかかる市民の血税がどう使われるか、無知と言って  
は申し訳ないですが、どのようにして維持していかないといけないのかとい  
うことを知らないんです。総合的に見てやっぱり加賀市全体の教育というも  
のを知っていただいて、我慢するところは我慢する、やりくりするところは  
やりくりする、配慮が足りないところは指摘しないといけない。こういう教  
育意識の高い地域に切り替えていかないといけないという気持ちで作った  
ということで、不備な点は多々あると思います。我々事務局側も逐次直して  
いきますので、幅広いご寛容のほどお願いします。

石橋委員長

今ほど教育長からもお話がありましたように、これ自体は大卒での方向性を  
示したものでございますので、それを踏まえた上で次回審議できればと思  
います。私も初回と 2 月の審議会、それから先般 7 月 31 日の審議会の 3 回傍  
聴させていただきましたが、一語一句まで全てチェックしながらこと細かく  
推敲しておりました。先ほど私はあえて変えていいのかとお聞きしまし  
たが、変えたくて聞いたわけではなくて、これはどうなっているのかとい  
う質問はすればいいですし、そうでないと我々の存在意味がなくなります。それ  
ではこの件につきましては、次回まで継続審議ということでよろしいでし  
ょうか。

梶谷課長

はい。

石橋委員長

それでは議案第 27 号については継続審議ということで各自読んでおいて下  
さい。続きまして、その他(1)について事務局よりご説明をお願いします。

■ その他(1) あわら市教育委員会との意見交換会について  
掛山局長 資料に基づき説明

旭教育長 この運びはいきなりこうなったわけではなく、去年あわら市教育委員会と連携して、あわら市の子ども達は加賀市のことをどれだけ知っているかアンケートをとりました。

掛山局長 一部ですけれども、中学2年生と小学5年生のアンケートをとりました。  
旭教育長 ざくっと言いますと、あわら市の子ども達は加賀市のことをよく知っている。だけど加賀市の子ども達はあわら市のことをほとんど知らないということがアンケートの結果で明らかになりました。そういうことも市長に報告しました。じゃあ、なぜそうなのか。学校で加賀市のことを教えているのか。お互いに教えていないんですね。どこに違いがあるのか。福井県のあわら市や金津の方々は加賀市によく来られる率が高いのか、子どもも一緒に連れて来るんでしょうね。ところが加賀市の方は意外と福井の方へ行かず、ほとんど小松の方へ行くみたいです。大聖寺の方は行くかもしれませんが、その辺の問題があるかもしれません。もっともとお互いのことを知らないといけないということが一点。お互いに忌憚のない意見を出し合うということで、全国学力テストのデータを出し合ったんです。同じ温泉場でも、福井県全体は全国学力テストの結果は全国1~2位で高いです。石川県が6~7位ですが、どうしてあわら市は福井県の中でも高いのか、お互いに教育委員同士話し合って何か打つべき手があるのであれば打つ。あわら市の中で一番小さい学校が、県境を挟んである吉崎小学校で全校生徒18名です。黒崎小学校25名の方が多いんですが、この18名でどうするのか、その学校に問い合わせると絶対に統廃合はしないそうです。県の境が砦みたいでそこを維持するというので、その小学校の運動会行事等があれば市長から教育長まで皆必ず応援に行くんです。加賀市は川を挟んで緑丘小学校がありますが、その辺の加賀市民としての意識、あわら市民の学校に対する意識というものがちょっと違うのではないかということで、忌憚のない交流を持つてはどうかということで今回の運びになりました。こういうことをやっていたら、おそらくあわら市の教育長も行くように言ったんでしょうね。明日と明後日、地域と人を結ぶ道徳教育研修会というのがアイリスであるんですけども、あわら市の教育委員会からも2人参加されます。このように先生方も交流してもらえれば言うことないですし、こういう現状です。

掛山局長 会議前には今教育長がお話された資料、それから学力に関する資料、いじめや不登校の件数等を皆さんに提出しますので、それを持ってあわら市へ視察します。

石橋委員長 他に何かございませんか。ないようでしたらその他(2)について事務局よりご説明をお願いします。

■ その他(2) 学校の適正規模・適正配置について  
掛山局長 資料に基づき説明

旭教育長

補足といっても、これはあくまでもいろんな考え方があって、その地域のシンボル、心の拠り所がなくなるということで大変なんですけども、私は冷静に考えて子どもや保護者の立場から見ると、切磋琢磨する、子ども達が持っている潜在能力を自然と引き出せる学校の規模というものがあると思うんです。保護者や子ども達の立場に立った場合、どこかで英断を下さないと保護者は不安になり、子どもは伸ばせるべく能力を伸ばせないまま終わらせてしまう。我々の軸足はあくまでも子どもの潜在能力を引き出すのに相応しい学習集団としての教育環境がどうかというところを見ていくしかない。冷静に現状を分析した場合、誰が何と言おうと黒崎小学校はやはり橋立小学校へ持っていくのがいいのではないかという案を出してあげる方が、黒崎の保護者や地域の方々にも素直な発想だと思います。じゃあ黒崎はそういうものとするのであれば、山中の菅谷小学校も同じくしなければいけないのではないかと。そうすると当然次は東谷口小学校をどうするかということになってくると私は思います。そうするうちに拠点となる小学校に、基準どおり動いていくという道を市民に示さないと疑心暗鬼になるのではないかと。だからルールに則って順番にやっていくという市民説明をしなければならない。学校規模、複式を持った場合どうするか、ここにかかってくると思います。ただ、あわら市教育委員会の全校生徒18名でも死守するという生き方もあります。加賀市教育委員会もそうならそうで、小さくても小学校の場合は地域の方が残さないと言うまで残しますというやり方でも構わないし、先生方も覚悟してかかります。具体的に申しますと、黒崎小学校の校長は1ヶ月ほど前に不安な顔で教育長室に来ました。25人しかいない校区なんですけども、来年度に入る予定の子どもが本当は5~6人いるのですが全員来ない。だから来年黒崎小学校は新生は0なんです。どうしてか聞くと、学童の関係等で就学変更願を出して別の学校へ行くんです。0になると潰れるでしょうというのがあの地域の発想なんです。親も苦しんでいるし、地域の愛着ある方も苦しんでいる。こういう無理なことをいつまでも放置していいのか。教育委員会は座して何もしていないじゃないか。どうすればいいんでしょうかと校長に言われました。教育行政は不安かもしれないが、今は保護者にしっかりと黒崎のいいところを全面に出せるようにやって下さいと、こう答えるしかありません。現実山中も同じです。山中ではどういうことが起こっているかという、何としても新生0というのは勘弁してほしいということで、前の校長が自ら動いて一生懸命されました。けどもそういうことをすると反対に親から恨まれる。保育所がないから山中保育所へ行けというのに、小学校は菅谷小学校に来いと言うのはおかしいじゃないか。素直な水の流れになっていないんですね。これはしっかりと現実を見て、基準を設けて早く市民に道

- だけは見せてあげないといけない。最後まで残すというなら残すというメッセージを市民に向けないと安心できないですね。
- 掛山局長  
旭教育長  
これはこれでまた審議時間を取りたいと思います。  
次はもう少し細かい計算をしたものを出さないといけないと思います。30人学級にした場合、35人学級にした場合、それから30～35人学級にした場合、例えば61人だったら普通は30人学級にしたとしても、一人多いから3クラスですね。黒崎小学校は6学級のところ3学級しかないんですね。こうなったら限界なんです。橋立中学校に行ったら黒崎から来た子が全部リーダーシップをとって学力向上している。要するに甲斐性ができているんですね。先輩が後輩を見る、自分で自学自習する、体で身に付いているから橋立は黒崎小学校の子達で成る。だから橋立が一番能力は高いですよ。素晴らしいものを持っています。なぜか聞いたら、黒崎小学校から来た子達が良いそうです。こうなると何がいいのか難しい。だから菅谷小学校もそうです。山中中学校がいいのは菅谷の子達が元気で強いからです。
- 石橋委員長  
どこかでそういう話を出さないといけないのは事実なので、また慎重に審議していきましょう。2～3年前の校長会の話し合いの中で、先生方にどれぐらいの規模が本当は望ましいのかお聞きしたときに、今はどうかわかりませんが、1クラス30人くらいで2クラスはほしいとおっしゃっておられました。そうすると仮に30人にしたとしても、平成29年度の子どもの数を数えますと、錦城中学校区は全部合わせると712人、橋立中校区は591人、東和中校区は722人、山代中校区では860人、ところが山中中校区は343人しかないんですね。例えば一つの小学校にまとめたとしても、単純に6で割ると60人いないんです。
- 掛山局長  
ぎりぎり2クラスです。
- 石橋委員長  
だから厳しいなと思いつつながら、2クラスは作れるんですけども、こういうところでも格差が出てくる。今教育長がおっしゃったように、黒崎や菅谷の子どもが元気だったりするんですけども、本当に小さい学校が劣なのか。お爺ちゃんお婆ちゃんになると学校がないといけない、となるかもしれません。保護者は実はそう思っていないのではないかと。先般の市P連の役員交流会で小さい学校出身の親御さんとか、小さい学校に子どもさんをやっておられる親御さんで一人は錦城中学校出身、一人は山代中学校出身でお嫁に来た方と話したのですが、私の想像していた話とは違って、大きい学校から嫁いだ人は小さな学校の方がよいと話していました。別の意味で目が覚めた気がしました。そういうことも含めて本当に真剣に考えないといけないと改めて感じさせられました。
- 酒谷委員  
山代小学校では1クラス40人多過ぎるから、せめてやっぱり30～35人に考えてもらわないといけない。でも全体の報告の中で三谷は地域の学校だと言っていませんでしたか。だから中々難しいなと思って私も聞いていました。

石橋委員長 子どものためであってもあくまで地域ありきなもので、なくなることでその地域が死んでしまうのではないかと、そうではないと思うのですが、現実に保護者からそういう意見が出ると考えると本当に難しい話になってしまうと思います。

掛山局長 もう少し資料を作り直しますので、それでまたご審議いただきたいと思います。

石橋委員長 続きまして、その他(3)について事務局より説明をお願いします。

■ その他(3) PTA 交流会について  
西出課長 説明

石橋委員長 他にございますか。

全委員 意見なし。

石橋委員長 特にないようございますので、以上を持ちまして平成 24 年第 8 回教育委員会臨時会を終了させていただきます。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。